

大学保健体育科目のあり方に関する研究

—その1 愛知教育大学一般体育実技受講学生に対するアンケート調査から—

愛知教育大学 体育教室 合 屋 十四秋
愛知教育大学 体育教室 天 野 義 裕
愛知教育大学 体育教室 小笠原 サチ子
愛知教育大学 体育教室 坂 田 利 弘
愛知教育大学 体育教室 丸 地 八 潮

I. はじめに

今日、「大学設置基準の大綱化」をはじめとする一連の大学改革の動きは、21世紀を間近に控えて、これまでの大学教育のあり方について様々な角度からの問い直しが求められている。

こうした問い直しの動きは、保健体育科目にあっても例外ではなく、戦後一般教育の中で、必修という枠の中で安住してきた保健体育科目への改革の動きはこれまでになく厳しい状況にある。とりわけ、保健体育においては、改革の手始めとして、「大学教育における保健体育の意味と価値をどう考えるか」を明らかにすることが求められた。

具体的な動きとしては、例えば、国大協¹⁾は、これまでの運動文化の習得中心の保健体育教育を健康科学教育へという方向で試案を出しているし、筑波大学²⁾のように、生涯スポーツに向けての自立的な人間の育成を志向し検討を進めている場合もある。

ともあれ、今回の改革は、「基準の大綱化」への対応のみではなく、保健体育科自体の問題として避けて通ることのできない重大な事態となっている。

II. 目的

今回の「大綱化」に伴って、本教室での改革の動きは、1990年度から「Ph検討委員会」(Phは保健体育科目の略称。以後はこれを用いる。)を設けて、将来に向けての検討を重ねてきた。改革の方向づけとしては、すでに全学にさきがけて、教育課程検討委員会にそのモデルプランを提示している。それは、図1のようである。

このモデルプランは、保健体育の目的を「生涯にわたり、健康で文化的なスポーツ活動を営める主体者形成を目指し、それに必要な教養、実践的能力を、健康に関する科学やスポーツに関する科学の成果を踏まえて保証していくこと」とおさえている。いわば、「からだ」への関心とコントロール能力という側面と運動を推進する原動力となる情動の面が健康・体力・運動文化にかかわる実践を通して止揚されると考えているのである。これは、「生活化、習慣化への働きかけとそれに必要な場の提供」と「コミュニケーションの場の提供」を通して進められ、「認識・運動・組織の各領域」の教授・学習過程を通して実現されていく。これにより生涯に

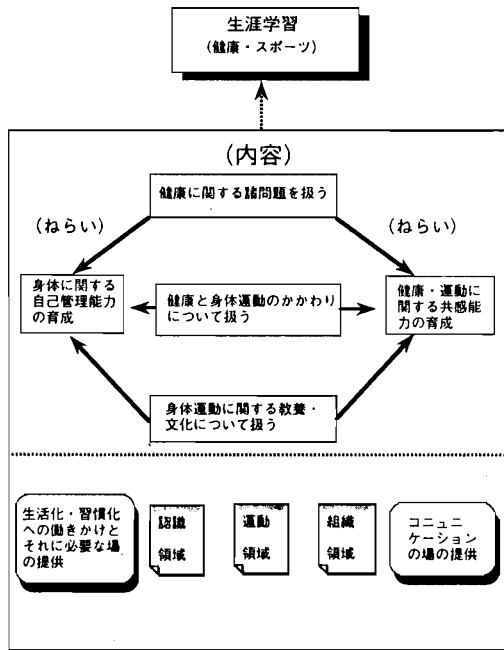


図1.愛知教育大学の保健体育科目に関する構想モデル

わたりスポーツを営む自主的な主体者形成が可能になると考えている。

しかしながら、こうした改革の方向づけは、具体的な実践においては様々な問題が生じることが予想される。いいかえれば、学生がPh実技や理論を受講した結果、どのような場面で何を受け止めたかを明らかにしながら、前記のモデルと対応させつつ、領域・種目・内容・方法を構築していく必要がある。

本研究は、このような観点から、モデルプラン実践化の最初の検討として、体育実技に対するアンケート調査を行ったので、その分析結果を報告する。

III. 方法

1. 調査対象および標本

調査対象は1991年度の本学Ph実技(1・2年必修)を受講した学生であった。調査標本は、再履修の3・4年生を除いた1・2年生合計1694名の有効回答であった。表1に標本数の内訳を示した。

表1. 標本数

学年	全体	男子	女子
全体	1694	650	1044
1年	813	342	471
2年	881	308	573

2. 調査方法

今回の調査は、「はい」、「いいえ」、「どちらでもない」の選択肢による質問と自由記述によった。選択肢質問は、表2に記載した項目であり、自由記述は①積極的に参加できたか、②満足のいくものであったか、③受講後の全体を通しての感想の3つであった。集計は、選択肢については単純集計し、自由記述についてはキーワードで分類を行った。分類方法としてはカードにキーワード化した語句をいくつかに分けて転記、類別し、出現したキーワードの度数を単純集計した。

調査結果は、学年別、性別に分類しその度数を集計してパーセントに換算した。

IV. 結果と考察

1. 『選択肢』について

表2、図2に1・2年男女合計の結果を示した。学年、男女別にも集計したが、全体的にはほぼ同じ傾向であったので、1・2年男女合計を全体の代表値とした。

表3の左に「はい」と答えた%の多かった順にそれぞれ60%以上、40%以上、20%以上、20%以下の4群に並べ変えた結果を示した。なお各群の記載は%の高い順である。次に、「いいえ」と答えた%のものについて、5%以上、10%以上、20%以上の3群に並べ変えると表3のようになった。各群の記載は%の低い順である。

以上の結果を集約してみると、受講学生はPhの必要性を認め、積極的に参加する状況にあり、友人ができたことや、授業を楽しみにしていることがわかる。学年間で顕著な差が見られ

表2. 調査結果の一覧

(%)

項 目	全 体		男 子						女 子					
			1 年		2 年		1 年		2 年		1 年		2 年	
	Y	E N	Y	E N	Y	E N	Y	E N	Y	E N	Y	E N		
体育実技の授業に積極的に参加できた	74.8	20.9 4.3	81.8	14.1 4.1	69.4	25.1 5.5	74.3	22.3 3.4	74.5	21.6 3.8				
体育実技は、満足のいくものであった	56.2	33.8 10.0	59.9	30.1 9.9	51.6	34.4 14.0	56.5	34.4 9.1	56.7	34.6 8.7				
体力が向上した	8.9	64.4 26.7	12.9	58.8 28.4	9.1	64.9 26.0	9.6	67.7 22.7	6.1	65.6 28.3				
技術が向上した	42.6	44.7 12.7	49.7	40.4 9.9	38.6	47.1 14.3	36.3	49.5 14.2	45.5	42.1 12.4				
健康状態が改善された	13.0	68.0 19.0	19.0	61.7 19.3	14.3	68.8 16.9	11.9	71.3 16.8	9.8	69.6 20.6				
受講したスポーツなどについて新たな知識を得た	52.6	33.4 14.1	37.8	43.7 18.5	48.7	34.1 17.2	48.6	37.4 14.0	66.7	23.2 10.1				
友人ができた	64.7	29.4 5.8	70.8	26.0 3.2	53.9	38.6 7.5	78.8	18.0 3.2	56.4	35.4 8.2				
身体や運動に対する関心が高まった	19.6	60.2 20.2	19.0	59.9 21.1	20.5	57.5 22.1	17.0	63.3 19.7	21.3	59.9 18.8				
自分の健康、体力の再確認ができた	47.5	37.4 15.1	45.0	40.1 14.9	53.6	31.2 15.3	43.5	40.3 16.1	48.9	37.0 14.1				
スポーツ文化への理解が深まった	8.8	57.9 33.3	10.2	57.0 32.7	11.4	55.8 32.8	7.6	60.9 31.4	7.3	57.6 35.1				
自分の生活習慣を見直す機会となった	22.5	46.2 31.3	21.9	45.0 33.0	25.0	44.5 30.5	19.5	49.9 30.6	24.3	44.9 30.9				
将来の役に立つ体験ができた	15.8	54.8 29.4	15.5	54.1 30.4	15.9	53.2 30.8	14.9	57.5 27.6	16.6	53.8 29.7				
教師からのよいアドバイスが得られた	27.5	50.8 21.7	28.4	47.7 24.0	15.7	55.6 28.8	33.5	52.7 13.8	27.6	49.4 23.0				
毎回の授業は楽しみであった	62.1	31.8 6.2	67.3	27.2 5.6	61.0	30.8 8.1	62.4	32.9 4.7	59.3	34.7 5.9				
一般体育の授業は必要である	80.8	16.1 3.0	79.1	15.0 5.9	80.5	16.6 2.9	81.3	17.2 1.5	81.5	16.1 2.4				
一般体育は健康や身体運動に関する実践的知識として役に立つ	49.0	41.2 9.8	50.3	40.4 9.4	38.3	47.1 14.6	54.6	39.5 5.9	49.1	40.6 10.3				
一般体育は生涯スポーツのために役に立つ	50.6	40.1 9.4	54.7	34.2 11.1	51.5	35.8 12.7	51.9	43.0 5.1	46.2	44.3 9.4				
4-11月の期間、同一種目を続けるのは適切と思う	47.5	29.0 23.5	46.8	30.1 23.1	44.5	31.8 23.7	49.9	23.8 26.3	47.8	31.1 21.1				
コース分けの時、種目の選択肢を豊富にしてほしい	74.6	21.2 4.2	75.8	19.8 4.4	73.4	21.1 5.5	79.2	18.9 1.9	71.0	23.7 5.2				
本学の一般体育の履修制度は現行のままよい	54.4	34.5 11.0	55.1	32.6 12.3	52.3	33.8 14.0	55.3	33.6 11.1	54.6	37.0 8.4				
一般体育の授業は4年間にわたって開設されるとよい	43.9	29.7 26.4	56.4	26.6 17.0	47.4	28.2 24.4	42.3	29.5 28.2	36.0	33.2 30.9				
一般体育の授業は選択にした方がよい	31.5	37.8 30.6	37.5	33.1 29.3	34.1	39.6 26.3	32.0	36.9 31.1	26.2	40.7 33.2				

注：表中のYは質問項目に対して「はい」、Eは「どちらでもない」、Nは「いいえ」と回答した割合を示す。

たのは、1年生男女の友人ができたと答えた者の回答であった。

茨城大学の保健体育調査³⁾によれば90%以上の学生が「仲間との交流やふれあいを持てる機会」として体育授業の意義を認めている。また、80%以上の割合を示したのは「気分転換をしたり、解放感を味わえる時間」「スポーツや運動の楽しさ、爽快感が味わえる時間」「気晴らし、息抜き、ストレスの解消」「日頃の運動不足を解消する時間」と答えている。さらに「友人を見つけられる機会」が80%弱、「チームや集団の連帯感や協力の楽しさを知る機会」「積極的に参加する楽しい時間」が70%弱と報告している。また、筑波大学体育センター⁴⁾によれば90%近くの受講生が「正課体育の必要性」を認め、「実践的知識として不可欠」であるとの認識を持っていた。さらに選択科目になったとしても80%弱の者が履修すると答え、60%以上の者が4年間の授業開設を望んでいた。

これらの報告と本研究の結果と比較すると、

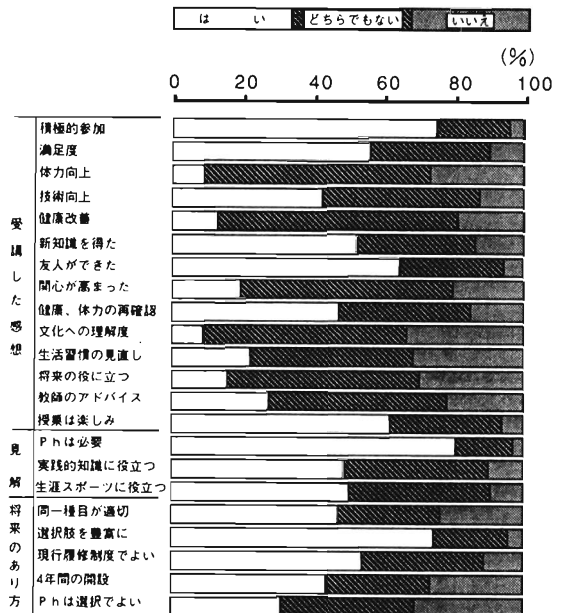


図2. Ph実技受講後の感想、見解、要望 (1.2年男女合計N=1694)

表3. 割合別に並べ換えた選択肢の一覧

「はい」と答えた%	「いいえ」と答えた%
60%以上 1) Phは必要 2) 積極的参加 3) 選択肢を豊富に 4) 友人ができた 5) 授業は楽しみ	5%以上 1) Phは必要 2) 積極的に参加 3) 友人ができた 4) 授業は楽しみ 5) 関心が高まった 6) 生涯スポーツに役立つ 7) 実証的知識に役立つ
40%以上 1) 満足感 2) 現行履修制度でよい 3) 新知識を得た 4) 生涯スポーツに役立つ 5) 実証的知識に役立つ 6) 同一種目でよい 7) 健康、体力の再確認 8) 4年間の開設 9) 技術の向上	10%以上 1) 現行履修制度でよい 2) 技術の向上がみられた 3) 新しい知識を得た 4) 健康、体力の再確認 5) 健康改善
20%以上 1) Phは選択でよい 2) 教師のアドバイス 3) 生活習慣の見直し	20%以上 1) 関心が高まった 2) 教師のアドバイスあり 3) 同一種目が適切 4) 体力が向上した 5) 4年間の開設 6) 将来の役に立つ 7) 生活習慣の見直し 8) Phは選択でよい 9) 文化への理解度
20%以下 1) 関心が高まった 2) 将来の役に立つ 3) 健康改善 4) 体力向上 5) 文化への理解度	

履修制度、実施形態、質問項目およびその数値に若干の差異がみられるが、ほぼ同様の傾向を示していた。このように本学学生もPh実技の授業の意義や必要性を肯定的に認めているといえよう。しかし、いずれの報告においても希望した実技種目の履修や種目数の増についての要望が多いことは一考を要する問題である。

一方、本研究の結果では体力、健康、生活改善についてはかなり低い評価がされ、運動や身体に対する関心および文化への理解度についても同様の傾向にあった。これらの事柄は、我々が体育の授業において、国民的教養として位置づけなければならないことであり、体育・スポーツの目的、目標の基本的なコアとなるものであるにもかかわらず、低い評価しか得られなかったことは、さらなる授業内容の工夫を必要とすることが示唆されるものである。これは大学の教育目的全体と密接に連携して展開されるべきことは言うまでもない。さらに、学生の自主的な課外スポーツ活動や学内の健康教育との総合

的なプログラムとの連携も今後の課題となるところである。将来的な展望に立って今後早急に検討および具体的対策をたてなければならない課題である。

2. 『自由記述』について

その1「積極的参加」について

Ph実技授業に積極的に参加できたか否かについて、その理由を自由記述させ、キーワードで類別したところ、キーワード総数(度数:1437)の82.4%(度数:1192)が肯定であり、16.8%(度数:245)が否定的意見であった。その内訳を図3と図4に示した。この数値は、選択肢回答における「積極的参加」の「はい」、「いいえ」の回答数と同じ傾向を示していた。

肯定的記述の内容については、「楽しい・おもしろい・好きだ」といった総合視点での肯定が35.5%(度数:511)、好きな種目、新しい種目を経験できて良かった、自分にあった種目が選択できて良かったと「運動種目」についての肯定が12.9%(度数:186)、指導内容、実施方法等に関する項目「授業展開」が12.8%(度数:185)であった。

否定的記述の内容については、積極的参加できなかった、欠席が多かった、遅刻が多かったと自己を反省的にながめる項目「消極的参加」が4.5%(度数:65)であり、選択した運動種目について、希望の種目が選択できなかった、2種目実施コースに関する種目間のアンバランス等「運動種目」についての否定が3.0%(度数:44)、次に2.5%(度数:36)の割合で、1限目は嫌だ、朝早いのはつらい、4限目でやる気をなくした等「開講方法」についての否定的意見があった。Ph実技には、「楽しい・おもしろい・好きだ」という総合的視点で積極的に参加している。また、肯定、否定に影響を与えらる「運動種目」のありかた、種目の設定、種目の選択については今後検討を要することがらであろう。

その2「満足度」について

体育実技の授業を受けて「満足したか?」の問いに対して、選択肢回答では、表2、図2の

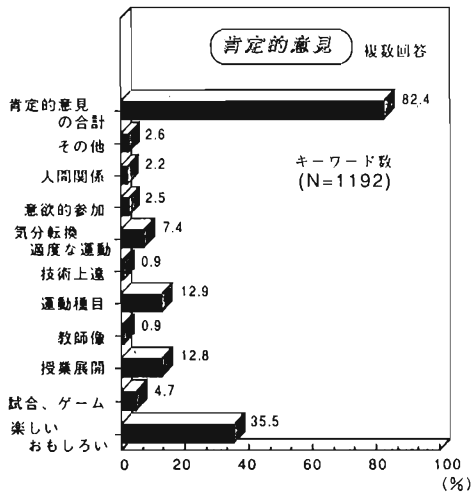


図3.積極的に参加できたか（肯定）

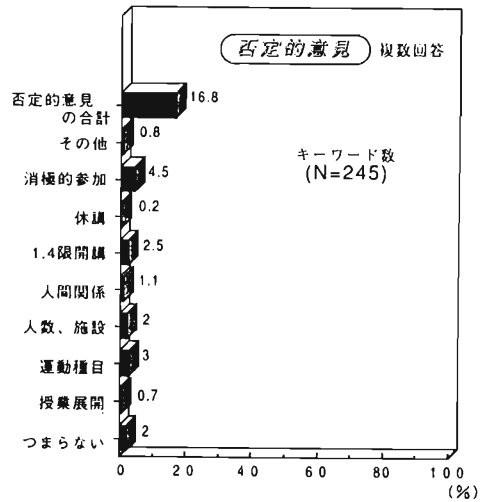


図4.積極的に参加できたか（否定）

ように、「はい」56.2%、「どちらでもない」33.8%、「いいえ」10.0%であったが、自由記述の文言・キーワードを肯定的・否定的キーワードに分けてまとめると図5と図6であった。

肯定的意見はキーワード総数（度数：1420）の62.3%（度数：884）、否定的意見は37.7%（度数：536）であった。

肯定的意見の内容は、「楽しい・面白い・充実」といった総合的視点に立ったキーワードが最も多く22.0%（度数：312）、試合・ゲーム

がたくさんできた、真剣に試合ができた、勝てたので満足したなどの「試合・ゲーム」にかかわる意見が9.4%（度数：133）であった。そして、指導の仕方がよかった、自主性を尊重する授業だったので満足したといった「授業内容・方法」の肯定的意見が6.8%（度数：95）、技術が上達した、うまくいったなどの「技術」についての肯定が5.6%（度数：80）、選択した種目の満足が4.9%（度数：69）、「意欲的参加」が4.4%（度数：62）であった。

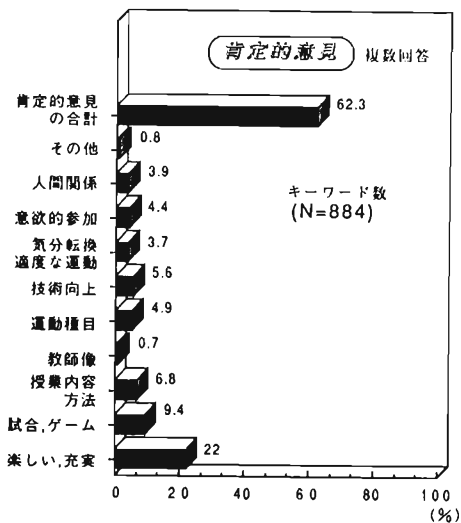


図5.満足したか（肯定）

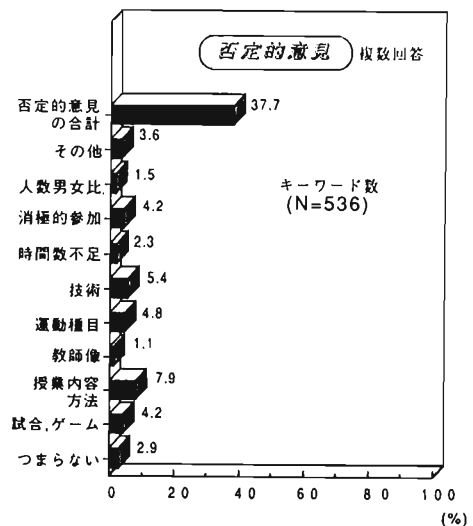


図6.満足したか（否定）

否定的意見で最も多かったのは、「授業内容・方法」の意見であり、その内容は指導がワンパターン、工夫がない、グルーピングを考えてほしいなどで7.7%（度数：112）であった。上達しなかった、うまくできなかったなどの「技術」に関する否定的意見が5.4%（度数：77）であった。希望した種目ができなかった、多くの種目がしなかったなど「運動種目」にかかわる否定的意見が4.8%（度数：68）、「試合・ゲーム」と「消極的参加」が4.2%（度数：59）と同数であった。

「満足度」の自由記述をまとめてみると、「楽しい・面白い・充実」といった総括的感覚で満足していること、その背景は「試合・ゲーム」の経験における真剣な取り組みといえそうであるが、「指導内容・方法」にはなお一層の工夫・努力が求められていると考えられる。

その3「全体自由記述」について

本調査について、全般的に感ずるところを自由に記述させたものの集計が図7、図8であった。自由記述に回答を寄せた学生は、1221名で回答率は71.3%あり、自由記述としては高率回答であった。集計は、前節の自由記述と同様にキーワードによって類別し、その頻度によった。キーワード記述ののべ総数は、1727であり、1人あたり1.41の回答であった。

記述内容は、次の4点に大きく分類できた。

1. Ph実技を肯定する記述（度数：801）
2. Ph実技を否定する記述（度数：193）
3. 基本的見解（度数：219）
4. 要望・意見に関すること（度数：514）

「肯定的記述数」と「否定的記述数」を比較すると、肯定数は否定数の4.1倍あり、前記選択肢回答の数値（表2）・（図2）を支持するものであった。

「Ph実技を肯定する記述」の内容は、さらに5項目に類別できた。ここでのキーワード記述度数をみると、「①楽しくできた29.1%（度数：289）」、「②リフレッシュ・体力の確認ができた27.7%（度数：275）」、「③指導内容・教師像がよかった10.3%（度数：102）」、などが多数回答であった。続いて「④人間関係（友人）ができた」とする者が9.7%（度数：96）あり、これらは、大学生活においてPh実技が有効な役割を果たしていると推察できよう。なお、先の選択肢回答では、「健康改善ができた」とする者は少なかったが、ここでの自由記述では、「リフレッシュ・運動不足解消・気分転換ができた」とする者は多く、検者側からすれば、これらの回答は「健康改善」と考えるが、回答者との受止めの違いを感じさせるものであった。

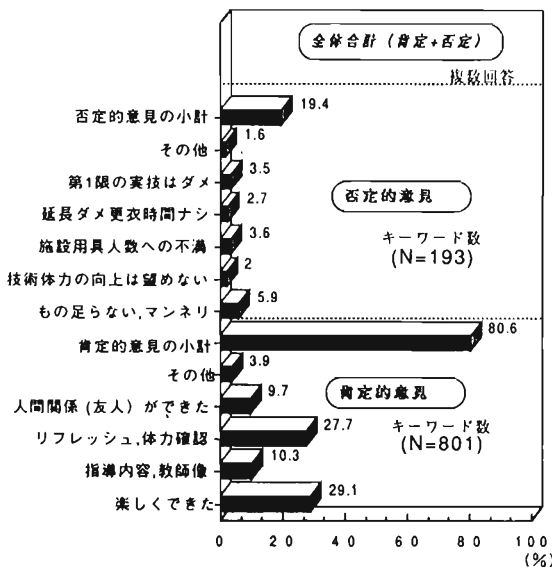


図7. Ph実技受講後の感想

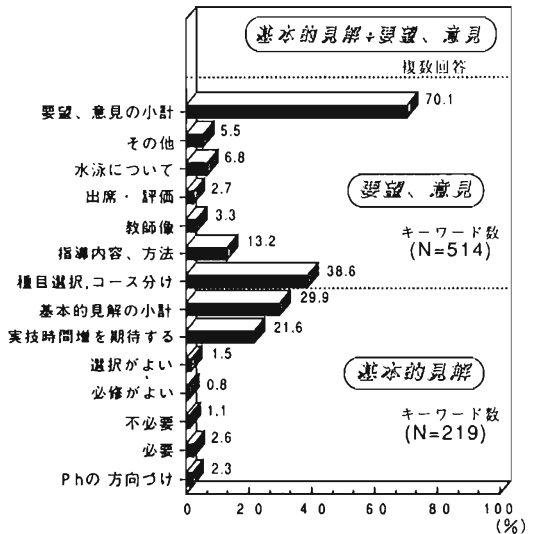


図8. 基本的見解、要望、意見

「Ph実技を否定する記述」の内容は、さらに6項目に類別できた。その中、最も多数あったキーワードは、「①もの足りない・つまらない・マンネリ」で5.9%（度数：59）であった。この数値は、全回答者数の4.8%であり、少数意見と見なせよう。

「基本的見解」の内容は、さらに6項目に類別できた。この中、多数回答は、「①Ph実技の時間増を期待」するものであった。この数は21.6%（度数：158）あり、「実技の通年開講や週2回開講、3・4年生での開講」などが含まれ、前述のPhを否定する記述とは対極する見解であった。

「要望・意見に関すること」の内容は、さらに6項目に類別できた。この中、多数回答は、「①種目・コース分け」に関する要望38.6%（度数：283）であり、この中、「種目選択肢を多くして」との要望が多く35.5%（度数：260）あった。本学での体育実技の授業は、現在、14種目が開設され、この中には、「競技的なスポーツ／レクリエーションな軽スポーツ／エアロビクス／体力作りを目指したコース」など多様な種目がある。しかし、1人の学生にとっては、自分が受講できる曜日・時限は指定されており、時間枠によっては、2コース分の授業しか開設されず、二者択一のコース選択になる者もいる。また、現行の時間割では、5種類のコースを開設できる枠もあるが、それとて、多様な要望を持つ学生のニーズに答えていないことが示唆された。また、「②指導内容・方法に関する要望」も多く13.2%（度数：97）あり、これらの要望は、指導者側として授業内容の点検を促すものであろう。

V. まとめ

本学学生、全1・2年生（1694名）を対象にして、Ph実技についてアンケート調査をし、次のようなまとめを得た。

①総括して、本学のPh実技は、好意的にとらえられており、「Phは必要（80.8%）、積極的に参加できた（74.8%）、友人ができた（64.7%）」などの回答率が高かったが、「身

体運動に関する文化への理解度（8.8%）、体力の向上（8.9%）」などの回答率は低かった。

②受講後の感想では、「授業を楽しく受けられた」とする者が多く、運動実践では、「運動不足」や「リフレッシュできた」とする者が多かった。

③今後の意見・要望として、開設種目の選択種目の増設やPh実技期間（週当たりの頻度、通年開講、3・4年生での開講）の増を望む件数が多くあった。

④以上のアンケート結果より現行のPh実技は、大方、支持されているとみなせるが、先に提示したモデルプランに照らすと、「運動領域」を満たし「コミュニケーションの場の保証」はなされているものの、「認識領域」「生活化・習慣化への働きかけと、それに必要な場の保証」については、一考を要することが示唆された。

謝辞

本研究の調査および論文の作成にあたっては、本学体育教室教官一同と、一般体育実技の非常勤講師の方々の御協力と示唆を得ました。ここに感謝の意を表します。

（1992年12月25日受理）

引用・参考文献

- 1) 国立大学協会・教養課程に関する特別委員会（1988）教養課程の改革、第5章保健体育。東京。
- 2) 筑波大学体育センター（1990）生涯スポーツ時代の大学体育の役割—新しい問題発見、解決方式のTeacher for IdealによるForum資料。
- 3) 西嶋尚彦・服部恒明・太田茂秋・巽 申直・松坂 晃・富樫泰一・日下裕弘（1992）茨城大学における保健体育に関する調査。茨城大学教養部紀要 24：285—286。
- 4) 前掲2）、P.100。
- 5) 日本体育学会 体育原理専門分科会編（1991）大学教育改革と保健体育の未来像—大学体育改革のための必読資料集一。不昧堂：東京。

自由記述のキーワード内訳一覧

「積極的参加」その理由についての内訳 (数値: キーワード頻度数) 注1

①肯定的記述 1192 ②否定的記述 245

① 楽しい、おもしろい、好きだ	511	① つまらない	29
② 試合、ゲーム	68	② 授業展開	11
③ 授業展開	185	③ 運動種目	44
④ 教師像	14	④ 人数、施設	29
⑤ 運動種目	186	⑤ 人間関係	16
⑥ 技術、上達	14	⑥ 1、4限開講	36
⑦ 適度な運動	107	⑦ 休講措置	3
⑧ 意欲的参加	37	⑧ 消極的参加	65
⑨ 人間関係	32	⑨ その他	12
⑩ その他	38		

【注1: 自由記述回答者数: 1401名 (回答率: 82.7%)、キーワード総数: 1437】

「満足度」その理由についての内訳 (数値: キーワード頻度数) 注2

③肯定的記述 884 ④否定的記述 536

① 楽しい・おもしろい・充実	312	① つまらない	41
② 試合・ゲーム	133	② 試合・ゲーム	
③ 授業内容・方法 (指導がよい、自主性尊重)	97	(試合をもっと、勝てなかった)	59
④ 教師、先生がよかった	10	③ 授業内容・方法 (ワンパターン、工夫なし、グルーピング)	112
⑤ 運動種目 (好きな種目、新しい種目)	69	④ 教師がいや、口うるさい	15
⑥ 技術(上達した、うまくなった)	80	⑤ 運動種目 (希望種目でない、他の種目を)	68
⑦ 適度な運動・気分転換	53	⑥ 技術 (上達しない、うまくできない)	77
⑧ 意欲的参加	62	⑦ 時間、回数不足	33
⑨ 人間関係 (一緒にプレー、友達ができた)	56	⑧ 消極的参加(積極的でなかった)	59
⑩ その他	12	⑨ 人数・男女比など	21
		⑩ その他(雨天、施設、わからない)	51

【注2: 自由記述回答者数: 1342名 (回答率: 79.2%)、キーワード総数: 1420】

「全体自由記述のまとめ」(数値: キーワード頻度数) 注3

⑤ Ph実技を肯定する記述 801 ⑥ Ph実技を否定批判する記述 193

① 楽しくできた	289	①もの足りない・つまらないマンネリ	59
楽しくできてよかった	(155)	もの足りない・つまらない	(38)
試合ができてよかった	(38)	マンネリ・ダラダラしている	(21)
スポーツ(種目)ができてよかった	(96)	②技術・体力の向上は望めない	20
②指導内容・教師像がよかった	102	③施設・用具・人数に関する不満	36
指導内容・展開がよかった	(67)	施設・用具に関する不満	(23)
教師がよかった	(35)	1クラスの人数が多すぎる	(13)
③リフレッシュ、体力などの確認ができた	275	④延長ゲーム、更衣時間なし	27
運動不足解消・リフレッシュできた	(254)	⑤時間割の問題	35
健康・体力などの確認ができた	(21)	⑥その他	16
④人間関係(友人)ができた	96	授業として無意味と感じた	(7)
⑤その他	39	休講・場所連絡の不徹底	(9)
技術が上達してよかった	(17)		
いろいろあるが現状肯定	(22)		

⑦ 基本的見解 219 ⑧ 要望・意見に関すること 514

①Phの方向づけに関する見解	17	①種目・コース分けに関する要望	283
②Phは必要とする見解	19	種目の選択肢を多くして	(260)
③Phは不必要とする見解	8	コース分けに関する要望	(23)
④Phは必修がよいとする見解	6	②指導内容・方法に関する要望	97
⑤Phは選択がよいとする見解	11	試合・活動量を多く	(25)
⑥Ph時間増を期待	158	指導法に工夫を	(34)
Phは実技適年開講を	(66)	指導内容に関する要望	(38)
Phは週2回開講を	(26)	③教師像に関する要望	24
Phは3・4年でも開講を	(66)	④出席・評価に関する要望	20
		⑤水泳に関する要望	50
		水泳に関する肯定意見	(7)
		水泳に関する否定意見	(43)
		⑥その他	40
		感想・評鑑	(37)
		Phは2年までで十分	(3)

【注3: 全体自由記述回答者数: 1221名 (回答率: 71.3%)、キーワード総数: 1727】